

青ネギの葉色及び日持ち性が低下する要因

利用対象：青ネギ生産農家、営農指導員、普及指導員

背景

- ・ 県内の青ネギ産地では生育途中に地上部の葉色が薄くなる現象が認められる。
- ・ 葉色が低下した青ネギは収穫後の日持ち性が著しく低下する。

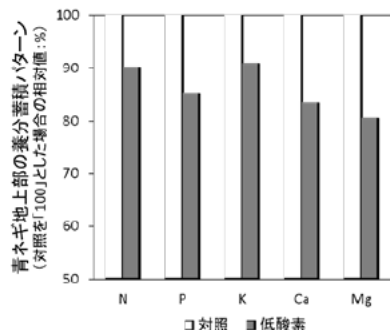
➡ 青ネギの葉色低下・日持ち性低下に係る要因を調査

青ネギの葉色・日持ち性低下の一要因

- 青ネギの葉色低下は湿害等により根の機能が低下すると発生します。葉色低下は一過的に発生した後、見た目に回復する場合がありますが、その場合も日持ち性は低下しました。
- 青ネギの根を低酸素状態にすると根量が著しく減少し、地上部では無機養分の蓄積量が低下するとともに、それらの蓄積バランスが乱れることが分かりました。
- 青ネギ生産圃場（灰色低地土及び黒ボク土）での土壌調査から、葉色低下は土層の気相率が小さく、透水性が低下している圃場で発生しやすく、作土の陽イオン交換容量（CEC）及び塩基飽和度が低下している場合に発生が助長される傾向が認められました。
- 青ネギの葉色低下・日持ち性低下を抑制するには、圃場排水性の改善により湿害を抑制するとともに、根の健全な生育と養分吸収能を維持できる土壌物理性の改良が必要と考えられます。



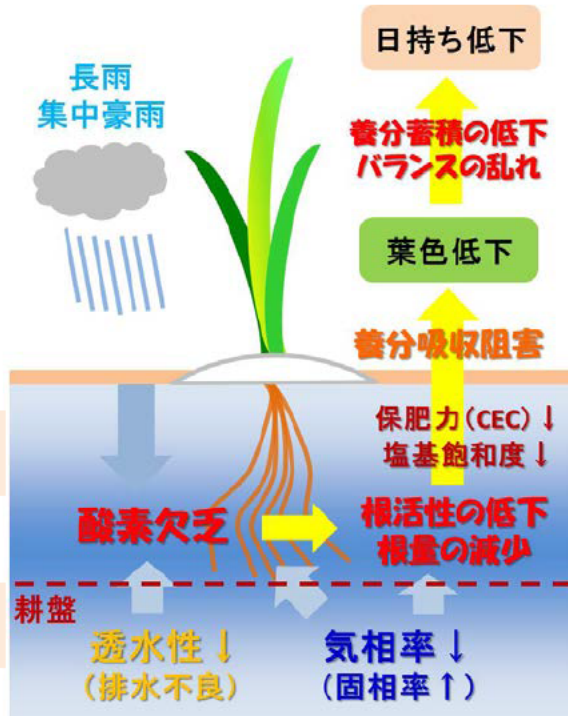
湛水なし 短い 湛水期間 長い



根の酸素欠乏
(O₂:1~2 ppm × 3 週間)

↓

地上部の養分量低下
蓄積バランスの乱れ



お問い合わせ先	フード・循環研究課 服部 侑、原 正之 電話 0598-42-6361 中央農業改良普及センター 清水秀巳、下 里緑 電話 0598-42-6323
参考になる資料	三重農研HP： http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/KenSeika/index.htm